

# 演劇コミュニケーション授業を学ぶ ファシリテーター講座 2022

2018年から毎年続けているこの連続講座は5回目となりました。今年も6回の講座を開きました。

講座には19名が参加しました。初めて参加される方が11名。ステップアップで参加された方が6名。飛び入りで参加された方が2名でした。そして新規で参加された方11名のうち、ファシリテーターをやってみたくて3名の方が手を挙げてくださいました。

今年度も、経験豊かな一流の講師陣の講義とワークショップを受講でき、笑顔が絶えない楽しく充実した講座となりました。

紙幅の都合により講座の一部をご紹介します。

(レポート 内藤 三和子)

## 第3回 講師 窪田 壮史

窪田さん(以後たけやん)は演劇が上手くなるためのワークショップも行う人である。俳優を育てる仕事もされていることから、視点の違いを時折説明の中に入れていた。

5分や10分位でできる様々なワークの後、全体で大きな円になり、フルーツバスケットならぬ何でもバスケットや、恋愛限定の何でもバスケットをした。

「初恋は小学校の時」「デートの服装は迷う」「ドライブのデートが好き」等々、その後グループになり、恋愛にまつわるエピソードを一人ずつ語り、誰かのエピソードを選んで演じることになった。これをたけやんは「プレイバックシアター」と呼んでいた。自分の3人グループは、何と私のエピソードが選ばれてしまった。私の記憶を二人が演じる。記憶は私の中に



### NPO法人えんげき広場 cue 2022年度 演劇コミュニケーション授業を学ぶ ファシリテーター育成講座

この連続講座は、学校で演劇コミュニケーション授業をおこなうためのファシリテーター育成講座です。ファシリテーションやプログラムについて学び、ファシリテーターの役割や子どもとの関わり方についてワークショップを体験しながら具体的に学んでいきます。希望者には、実際に学校でのファシリテーターを体験する機会もあります。演劇コミュニケーションが授業に活用できる方なら誰でも受講していただく講座です。ぜひご参加ください。  
今年度は初めての方に向けてのプログラムです。できる限り全講座に参加可能な方を募集します。

第何回	講師	会場	日時	参加費
第1回	平田 オリザ	オンライン(※どなたでも参加可)	8月28日(日) 20:00~22:00	500円
※以下の講座は対面で行います。第2回~第6回は、できる限り全講座に参加してください。参加費無料・定員20名。				
第2回	わたなべ なおこ	福岡県 NPO-ボランティアセンター	9月20日(火) 15:00~18:00(3時間)	
第3回	窪田 壮史	大徳レンタルスタジオ 205	9月28日(日) 15:00~18:00(3時間)	
第4回	河野 悟	筑紫野市内コミセン(予定)	10月12日(水) 15:00~18:00(3時間)	
第5回	林 成彦	福岡県 NPO-ボランティアセンター	10月19日(水) 15:00~18:00(3時間)	
第6回	わたなべ なおこ	筑紫野市内コミセン(予定)	12月14日(水) 15:00~18:00(3時間)	

会場：福岡県 NPO-ボランティアセンター(〒815-0855 福岡市東区吉原本町1-3番5号福岡県吉原市庁舎5階 大徳レンタルスタジオ 205 (西鉄大橋駅徒歩3分) 福岡市南区知家 3-17-1



基調講演(オンライン) 平田オリザ  
テーマ 『なぜ今、演劇コミュニケーション授業なのか?』  
※この講座は、どなたでも参加いただけます。

平田オリザ 劇作家・演出家・青年団主宰、芸術文化観光専門職大学学長、江原河野劇場芸術総監督。こまばアプロ劇場芸術総監督、豊岡演劇祭フェスティバル・ディレクター。1962年、東京都生まれ。国際基督教大学在学中に劇団「青年団」結成。東京藝術大学COI研究推進専任教授、大阪大学 CO-UP 専任教授、大塚大学 CO-UP 専任教授。2002年度から採用された国語教科書に収録されている平田のワークショップ方法論について、多くの子どもたちが、教室で演劇を作る体験をしている。



わたなべなおこ 演出家。NPO 法人 PAVLIC 理事。1974 年生まれ。兵庫県赤穂市出身。神戸大学卒業。1988 年より中央戯劇学院(北京)に留学。2000 年、劇団あなざーわーくを設立。観客と俳優の間のコミュニケーションを軸に展開する、ユニークなスタイルの演劇活動を行っている。また、ワークショップ、ファシリテーターとしても、様々な年代を対象にワークショップを行い全国各地で活躍している。



河野悟 NPO 法人 PAVLIC 理事/劇団エコーポイント理事/俳優 1977 年生まれ。埼玉県人間市出身。駒澤大学卒業。舞台俳優として公演を行うと共に、ワークショップ/ファシリテーターとして全国各地で活動する。演劇的手法を用い、「コミュニケーション」「安全」「防災」「多文化共生」等、社会的な目的に応じて様々なワークショップを生地。対象も幼稚園児から社会人、子育て中の母親、外国人と多岐に渡る。筑波大学主催の教員免許更新講習の講師、青山学院大学ワークショップデザイナー育成プログラムの講師も務めている。



窪田 壮史 俳優。NPO 法人 PAVLIC、大阪府出身。新国立劇場演劇研究所修了(一期生)。現在はフリーの舞台俳優として活動中。主な出演作品は「舞台は夢」「ビッグマリオ」「三つ葉」(すべて新国立劇場)、「マクベス」(子供のためのシェイクスピア)、「水の手紙」(こまつ屋)など他多数。また並行して演劇の授業や演劇を用いたコミュニケーション教育にも携わっており、日本各地の小中高大学で授業やワークショップを展開している。玉川大学芸術学部演劇・舞踊学科非常勤講師、都立総合芸術高校講師、新国立劇場演劇研究所卒年担任。



林成彦 俳優/演出家/演劇ワークショップリーダー/演劇講師 1969 年生まれ。愛知県名古屋市出身。東京大学文学部行動文化学専攻卒業。大学在学中に演劇活動を開始。俳優・演出家として多数の公演に参加。近年は演劇ワークショップ活動を積極的にこなしている。福岡市・仙台市・水戸市・静岡市・名古屋市・福岡市など東京以外でも多くのワークショップを開催している。高校演劇を熱心に応援しており、毎年 200 作品ちかくを観劇。近年はコンパニオンの審査員を務める機会も多い。(「部活動」としての学芸演劇) 2010 年より青年団演出部に所属。

あるので、私は演出の係となった。大学生と大学の先生が演じてくれた。練習しているとたけやんから、「ちゃんと、きゅんポイントが分かるように」という指示があった。どこがきゅんポイントかを二人の役者に伝えた。再現されると、「おお、我ながら素敵な恋愛シーンではないか」と思った。たけやんのコメントは、演じる人がその人のエピソードを大切に演じ、見る人は思い出すそこに良さがあると(確か)言われていたように思う。自分の体験をその場の参加者に見られるのは、照れくさい気もするが、演出の際に分かるように指示する中で気づいたことがある。それは、過去の体験というものが、自分や関わった人だけのものではなく、演出をし、演じる中で広く他者に伝えられる普遍性を持つということだった。これは、すごいことである。良いことも素敵なことも、ひどいことも惨いことも、私たちは演劇によって目の当たりにできるということだった。もっともっと演劇のことを知りたい、考えたいと思いながら今振り返っている。

## 活動報告

## 第4回 講師 河野 哲

河野さんは、私たちが演劇ワークショップのメイン講師としてお願いすることの多いPAVLICの設立メンバーである。PAVLICの行うワークショップは、演劇を普段しない人たちに演劇を通して演劇ではない何かに気づかせる。演劇人や演劇が好きな人のためのワークショップは世の中では多く行われて、PAVLICの行うワークショップはその意味で特殊だそう。河野さんは多くのワークショップを体験しながら、ワークショップそのものの特徴を考えたり、オリジナルのプログラムをつくったりしている。この日の内容は半分が講義で、半分が演習だった。

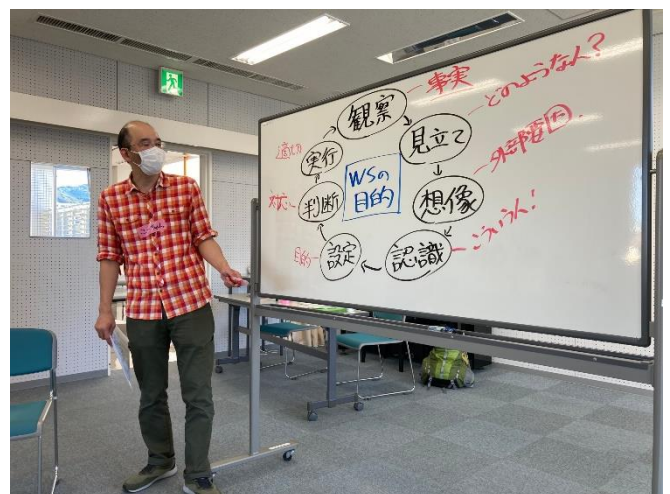
プログラムはオリエンテーション、アイスブレイク、メインコンテンツ、リフレクションで構成される。学校の先生に、どういう目的でやりたいか、WSに期待することは何か、子どもたちの課題となっていることは何かを聞き、目的を共有して目的を達成するためのメインコンテンツを考えて、それにつながるアイスブレイクを考えて、というようにプログラムを構成する。

ファシリテーションは参加者の言動の事実を見る「観察」に始まる。次にどのような子かを「見立て」る。次に見立てに至る外部要因を「想像」する。なぜ一人であるかなど。そして、その参加者をこのような子と「認識」する。その上でWSの目的を「設定」する。WS全体の目的とは別に人物に対して行うとのことだった。それは、全体の目的がその子にそぐわないことがある。その子自身がまだその領域に到達し

ていないあるいはその段階をもう超えているなどの場合は、その子に合うの目的を設定する。そして、「判断」した目的に従ってWSを「実行」することだった。これらを循環的に行ったり、同時に行ったりすることだった。良いファシリテーターは観察、見立て、想像、認識の精度が高い。

休憩後は「見立て」の練習を行った。課題のある子を河野さんが演じ、参加者は「事実」を記録する。そして、事実とは別に「見立て」をするという演習を行った。

河野さんへの質問の場面では、「見立て」と「想像」との違いについて、「想像」は「見立て」に至る外部要因で、家庭環境であったり、厳しい先生の前で警戒する学校の環境だったりという例で示していた。子どもの事実がどのように成立しているのかを捉えて課題を設定していくファシリテーションの理論的裏付けを知ることができた。



2022年ファシリテーター講座 概要				
	講師	会場	日時	参加人数
第1回	平田 オリザ	オンライン	8月28日(日)	83名
第2回	わたなべ なおこ	福岡県NPO・ボランティアセンター	9月20日(火)	16名
第3回	窪田 壮史	大橋レンタルスタジオ 205	9月28日(水)	11名
第4回	河野 悟	筑紫南コミュニティーセンター	10月12日(水)	17名
第5回	林 成彦	福岡県NPO・ボランティアセンター	10月19日(水)	13名
第6回	わたなべ なおこ	筑紫南コミュニティーセンター	12月14日(水)	14名
	全6回	参加人数合計 オンライン83名 対面での参加19名・延べ71名		